

# 令和5年度日本植物病理学会関西部会のお知らせ

令和5年度関西部会開催地委員長 川崎 努

令和5年度日本植物病理学会関西部会を下記のとおり開催致します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

## I. 会場と日程

- ・会場：近畿大学 農学部(奈良キャンパス)  
〒631-8505 奈良県奈良市中町 3327-204 (<https://www.kindai.ac.jp/agriculture/>)
- ・日程：令和5年9月23日(土) 11:30～ 受付 <新教室棟 エントランス>  
13:00～14:00 総会・部会長講演 <209 教室>  
14:20～18:10 一般講演 <第1～3 会場>  
18:30～20:30 情報交換会<つながる館(農学部構内)>  
：令和5年9月24日(日) 9:00～11:25 一般講演 <第1～3 会場>

## II. 開催地ホームページ

- ・参加登録、発表者登録、講演要旨受付、などは、下記よりお願いいたします。  
<https://va.apollon.nta.co.jp/kansaibukair5/>

## III. 参加受付

- ・締切：令和5年9月8日(金)  
締切以降、HPからの事前参加登録はできません。
- ・参加費：参加費 正会員および非会員 4,000円(9月8日以降は5,000円)  
学生会員および学部生会員 2,000円(9月8日以降は3,000円)  
：講演要旨集をご希望の方 1部2,000円より別途ご注文いただけます。  
部会終了後の発送になります。  
：情報交換会費 5,000円(学生3,000円)  
講演プログラムおよび要旨集は、9月上～中旬までに学会ホームページにて公開し、参加登録者は無料でダウンロードいただけます。  
名札は当日受付にてお渡ししますので、部会参加期間中は必ず携行してください。
- ・要領：(株)日本旅行の予約システム Apollon によるオンライン受付を行います。上記アドレスにアクセスし、まず新規利用者登録を行ってください。参加登録は参加者1人ずつ行ってください。お支払方法は、クレジットカード、コンビニ決済、銀行振込からお選びいただけます。

#### IV. 発表申込 と講演要旨の作成要領

・締切：令和5年7月31日（月）

・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（令和5年度会費納入者）で、1人1題とします。発表希望者は、参加登録のログインページ内の「[講演申込はこちら](#)」から発表者情報および発表申込情報をご登録ください。講演要旨は「[要旨投稿はこちら](#)」からアップロードしてください。締切前であれば、何度でもアップロードが可能で、ファイルは上書きされます。要旨は「講演要旨原稿作成要領」に従ってMS Wordのファイルで作成し、ファイル名を「発表者氏名.docx」としてください。「[III. 参加申込](#)」、「[講演申込](#)」、「[講演要旨原稿の投稿](#)」をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は、座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

#### V. 発表の形式とデータ提出

・発表形式：発表は口頭のみで行います。ポスター発表は行いません。

・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。発表用ファイルは、前もってWindows版「PowerPoint 2019」で正常に表示されることを必ずご確認ください。ウイルスチェックをお済ませの上、USBメモリーに保存してください。ファイル名はすべて半角英数字で「講演番号-発表者姓.pptx」として下さい（例「001-Ito.pptx」）。発表用ファイルは、部会初日に発表の方は9月23日午前11時までに、2日目に発表の方は午後4時までに、受付にてパソコンにコピーし動作確認をお願いします。お持ちいただいたUSBメモリーはその場で返却致します。なお、サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので、なるべく軽いファイルをご準備ください。

## VI. 宿泊と交通

開催地事務局では宿泊・交通等の斡旋を行いませんので、各自で手配をお願い致します。

<会場までのアクセス>

<https://www.kindai.ac.jp/agriculture/access/>

・電車：

新大阪駅から

1. JR 京都線（大阪方面）で大阪駅まで 6 分  
JR 環状線外回り（京橋、鶴橋方面）に乗り換え、鶴橋駅まで約 15 分  
近鉄奈良線（奈良方面）準急に乗車、富雄駅まで 約 25 分
2. 地下鉄御堂筋線（難波方面）で難波駅まで約 15 分  
近鉄奈良線・準急に乗車、富雄駅まで約 30 分

京都駅から

1. 近鉄京都線・急行に乗車、西大寺駅まで約 40 分（特急では約 30 分）
2. 近鉄奈良線・準急（難波方面）に乗り換え、富雄駅まで約 7 分

富雄駅から

西出口を出て、富雄川沿いを南に歩き、「新富雄橋」をわたる  
「近畿大学バス乗場」で奈良交通バス乗車、キャンパスまで約 10 分  
（※乗り換え時間は含みません）

## VII. 昼食について

休日のため、構内の食堂は利用できません。

## VI. 連絡先

・令和 5 年度関西西部会の各種お問い合わせ等は、関西西部会開催地事務局へお願いいたします。

令和 5 年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

近畿大学農学部生物機能科学科

植物分子遺伝学研究室（山口・川崎）

TEL: 0742-43-1601

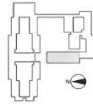
E-mail: k-yamaguchi(at)nara.kindai.ac.jp

※メール送信の際は(at)を@に置換して下さい

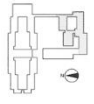


・総会	209教室	・受付	新教室棟2階エントランス
・第1会場	211教室	・PC受付	213教室
・第2会場	311教室	・休憩室	212教室, 216教室, 218教室
・第3会場	202教室	・役員会	312教室
・情報交換会	つながる館	・事務局	312教室

新教室棟



教室棟 2階



## 令和5年度関西西部会講演要旨原稿作成要領（昨年度と同じです）

※講演要旨様式テンプレートファイル（R5Kansai\_form.docx）が、日本植物病理学会ホームページ<研究集会（2023）—関西西部会（<http://www.ppsj.org/meeting.html>）>からダウンロードできます。

### <全体の大きさ>

- ・和文講演者氏名から所属略称までが、縦 73 mm，横 161 mm の枠に収まるようにする。
- ・1つのファイルに収める講演要旨原稿は1つとすること。

### <ページ設定>

- ・用紙サイズ：A4 用紙，縦方向。
- ・余白：上 15 mm，下 30 mm，左 25 mm，右 25 mm。
- ・文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数 50，字送り 9 pt，行数 51，行送り 14 pt。

### <配置>

両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

### <フォント>

- ・フォントサイズ：すべて 9 pt。
- ・日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS ゴシック）。
- ・英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。
- ・句読点：「，」「。」
- ・イタリック指定：題目，本文中とも学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

### <和文講演者氏名>

（1行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り，発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には，上付き番号「<sup>1</sup>」「<sup>2</sup>」で区別する。

### <和文題目>

（2行以内）フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする。

### <英文講演者名と英文題目>

（2行以内）氏名は，family name，first name initial，middle name initial の順に書き，initialの間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は，コロン「:」で区切る。

### <本文>

9行以内で記載する。

### <所属略称>

（1行）括弧「()」に入れ，右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り，和文講演者氏名に対応させて上付き番号「<sup>1</sup>」「<sup>2</sup>」をつける。

<講演要旨原稿の下に、以下の情報を記入>

- (1) 発表希望分野（「菌類病」、「細菌・ファイトプラズマ病」、「ウイルス・ウイロイド病」、「植物保護」の中から1つ選ぶ）
- (2) 発表内容（「分類・同定」、「検出・診断」、「病原体の性状」、「発生生態」、「感染生理」、「病原性・抵抗性」、「防除薬剤・薬剤耐性」、「生物防除・防除法」、「その他」の中から1つ選ぶ）
- (3) 対象植物（和名または学名で示す）
- (4) 対象微生物（和名または学名で示す）
- (5) 原稿送付者の氏名
- (6) 原稿送付者の E-mail アドレス
- (7) 発表者の学会会員番号(会員番号は封筒の宛名シールに記載されています. 令和5年度会費未納の方は, 至急会費をお支払いください.)

講演要旨原稿の例 (本文は9行以内を厳守!)

○山口公志<sup>1</sup>・吉村智美<sup>1</sup>・川崎努<sup>1,2</sup>  
イネ白葉枯病菌エフェクター XopZ によるイネ免疫抑制機構の解析<sup>⇐</sup>  
Yamaguchi, K., Yoshimura, S., and Kawasaki, T.: Molecular mechanism of suppression of rice immunity mediated by *Xanthomonas oryzae* effector XopZ.<sup>⇐</sup>  
<sup>⇐</sup>  
我々はイネ白葉枯病菌のエフェクターの過剰発現体を利用したスクリーニングにより、イネの免疫抑制活性を示すエフェクター XopZ を単離した。XopZ は coiled-coil 構造を有し、イネのプロトプラスト内で核に局在する特徴を持つ。しかし、XopZ の機能は不明である。我々は酵母ツーハイブリッドスクリーニングにより XopZ interacting proteins (ZIPs) を単離した。ZIP3 は機能未知タンパク質であり、イネのプロトプラスト内で核と細胞質に局在した。zip3 機能欠損イネはイネ白葉枯病菌感染に罹病性を示したことから、ZIP3 はイネの抵抗性に関与することが示唆された。ZIP3 は XopZ と同様に coiled-coil 構造を持ち、coiled-coil 構造を介してダイマーを形成した。XopZ と ZIP3 の詳細な相互作用を解析した結果、XopZ と ZIP3 は coiled-coil 構造を介して、強く相互作用していた。さらに、XopZ により ZIP3 のダイマー化が阻害されることを明らかにした。本発表では XopZ による ZIP3 を標的としたイネ免疫抑制機構について討論する。----- (本文9行以内厳守!!!) <sup>⇐</sup>  
(1 近大院農・2 近大アグリ研)<sup>⇐</sup>  
<sup>⇐</sup>

- (1) 細菌・ファイトプラズマ病<sup>⇐</sup>
- (2) 感染生理<sup>⇐</sup>
- (3) イネ<sup>⇐</sup>
- (4) イネ白葉枯病菌<sup>⇐</sup>
- (5) 山口公志<sup>⇐</sup>
- (6) XXXXX@nara.kidai.ac.jp<sup>⇐</sup>
- (7) XXXXXXXXXXXXX<sup>⇐</sup>